

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300138		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム安暮里みしまの家		
所在地	栃木県那須塩原市東三島1-104-223		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop?0">www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanr1.nsf/aHvokaTop?0</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成30年12月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名入居定員の、小規模なグループホームです。  
 そのため、小規模ならではのアウトホームな雰囲気最大の利点とし、入居者様がゆったりと落ち着いて生活できる環境作りができる様に努めています。  
 入居者様が「安心して暮せる場所」としてみしまの家が存在できればと考えています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・社会福祉法人京福会は昭和55年開設し「人としての命、人としての生活」を基本理念とし幅広く福祉事業に取り組んできた。グループホーム安暮里みしまの家は平成24年5月に開設する。事業所周辺は就労世帯が多い住宅地ではあるが、管理者は地域に根差すことを大切な課題として、地域交流に取り組んでいる。  
 ・医療機関が母体であり、また介護関連施設も充実しているので、重度化した場合や病状に応じて早い段階から相談できる体制がある。母体病院医師の往診や看護師の訪問が定期的であり、医療との連携が整っている。重度化した場合でも、事業所でできることを十分に説明し本人や家族の思いを大切にしてお互いの連携を図っている。  
 ・職員一人ひとりが向上心を持って仕事に取り組めるように、法人内や外部の研修を受ける機会を多く設け、人材育成に力をいれている。研修費用の補助制度や資格手当を設けている。当事業所には介護福祉士資格保有者が多く、専門職としての知識や経験が多方面にわたり活かされている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念【入居者が自分らしく安心して暮らせる家であること】を念頭に置き、継続した援助が行える様に努めている。	管理者と職員は事業所理念である。「入居者が自分らしく安心して暮らせる家であることを」を日々の支援の拠り所として心に留めて支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の田植会に参加している。今後も地域の行事には積極的に参加していきたい。	管理者は区長を通して自ら地域に足を運び交流の基盤づくりを行っている。地域イベントの「田んぼの学校」には毎年参加することが恒例となっている。1月にはどんど焼きに参加を予定している。市内中学校からの職場体験や大学からの看護実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は認知症サポーター養成講座を行っていない。継続して行える様に検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をサービス向上に活かせる様に努めている。	2か月に一度開催している。家族や地域の方、行政職員、ボランティア等の参加がある。会議では事業所の現状や事故等の報告を行い参加者から意見を貰い話し合いが行われている。サービスの質の確保や適切な運営に対し真摯に取り組む姿勢が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事がある時には担当者に連絡し、答えて頂いている。サービスの取組み等は運営推進会議で伝え、協力関係を築いている。	管理者は、法改正に伴う書類等の確認や、年末年始の行政への書類の提出はどうしたらいいのか等、分からないことを日頃から市担当者と連絡を密にとっている。運営推進会議への参加もあり相談や助言を貰う等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度の7月から毎月身体拘束廃止についての話し合いを行い、法人の学習会でも学んでいる。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会が設置されている。月に1度実施しているワーカー会議の中に研修を組み込み、事例を検討する等、学びの場を設けている。また、法人でも、年2回の学習会の中でも取り上げ、全ての職員が質の高いケアを実践できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待防止についての学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学習会に組み込んで、学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にきちんと説明を行っている。家族様には、不明な事がある時にはいつでも連絡下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様の意見、要望は面会時等に伺っている。また、運営推進会議で家族様代表者に意見を述べてもらい、それらを運営に反映している。	毎月の利用料を現金払いとしているため、月に1度は家族の面会の機会を確保している。その際に、入居者の生活状況を伝えながら家族の意向を聴くようにしている。家族から職員の名前が分らないので名札を付けて欲しいという要望があまり実践している。今年、初めての試みとして家族との食事会を行い、更に家族からの意向を聴きだそうと努力している。	家族のアンケートから、日中の過ごし方やレクレーションへの充実を希望する意見があがっています。家族の希望が反映されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年度末の全体会議の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	個別面談を年1回設けている。また、毎月の職員会議や年度末の全体会議等で、職員が発言できる機会を設けている。法人の管理職会議では職員同士のロールプレイ学習を取り入れている。管理者が職員を理解することで各職員の向上心に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働いてくれていると思う。職場環境や条件の整備はその時代に合ったものを、継続して検討していく必要があると思う。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習会や研修を中心に能力向上を図っている。法人外の研修も積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内、他施設との勉強会や相互訪問があり、サービスの質向上に繋がっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に実態調査を行い、安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に家族様に聞き取りを行い、思いや意向の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、家族様の聞き取りをもとに、どんな支援が適切か考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	余暇活動や外出、検食等、一緒にできる事は行い関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院等、家族様のできる事は行ってもらう場面もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊に行かれる入居者様もいる。馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	入居前に通っていた「趣味の会(日光彫り)」や、その展示会に家族と一緒に参加された方がいる。また、墓参りや眼鏡の調整で外出する等、家族の協力を得て馴染みの関係や場所との継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士も相性があるので、それを考えながら支援できる様に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される際、何かある時には連絡下さいと伝えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に聞き取りを行っている。困難な場合は家族様に相談し、希望や意向の把握に努めている。	一人ひとりの思いを聴き、受け止め、実践することを大切にして日々努力している。言葉で伝えることが困難な方に対しては、本人や家族にとってどうしたら良いのか対処法を模索し、出来る限りの工夫をし実践している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に実態調査を行い、これまでの暮らしの把握を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ワーカー会議やケアカンファレンスで現状の把握を行っている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、看護師、介護職員で、なるべく現状に即した介護計画を作成できる様に努めている。	居室担当者が中心となり、日々の暮らしの中から一人ひとりの課題を把握しカンファレンスにおいて介護計画書を作成している。モニタリングは管理者が中心となり毎月行っている。また、介護計画書に沿った記録が取れるように書類を工夫している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。その情報を介護計画の見直しにも活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り柔軟な支援を行える様に考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができる様に努めているが、地域資源の把握に関しては努力が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、家族様と話し合いながら、適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医の継続については、入居時に本人や家族の意向を聴いて本人や家族が決めている。法人の母体が病院で、病院からの往診や訪問看護が整備されていることもあり入居者全員が母体の病院を主治医としている。定期受診は事業所の職員が対応している。歯科や整形外科等は家族が付き添い通院している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に変化があった時は、職場内の看護師に報告、相談し、適切な受診、看護を受けられる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に1回病院の看護師が施設に来られた際に、入院者の情報を聞いている。また、不定期ではあるが、病院看護師と施設看護師の話し合いが行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に入居者様、家族様と話し合っている。	医療機関が母体であり、また法人の介護関連施設も充実しているので、重度化した場合や病状に応じて早い段階から相談ができています。揺れ動く家族の心境に対し、事業所でできることを十分に説明し、家族の思いや意向に沿って実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的に行うまでは至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練や災害時の学習会を行っている。	年に2回、隣接する小規模多機能型事業所と合同で消防訓練を行っている。1回は消防署の立ち会いの下、消化訓練を実施し助言を貰っている。事業所周辺は新興住宅地であり日中は就労している世帯が多く、災害訓練や有事の際の協力方法を模索中である。	災害時には、地域の協力が必要ですが、現在事業所周辺の住民との協力体制が不十分です。運営推進会議にて議題に上げ検討する等、地域との協力体制が整備されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉遣いで対応するように心掛けている。	入居者への言葉遣いには十分留意し、更に馴れ合いにならないように緊張感を持ち対応している。「人としての生命、人としての生活」という法人の理念を心に留め支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくそうしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りそうしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その様に考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を業者に依頼しているので、メニューは決まっている。時々行事で外食を行い、普段食べられない物などを食べている。できる方に関しては一緒に食事準備や後片付けを行って頂いている。	食材とメニューは業者に依頼し、職員が調理して提供している。誕生日には入居者の希望を聞き好みのケーキでお祝いしている。入居者と一緒にハンバーグを手作りし食を楽しむ機会も設けている。朝食はパンという方には個別に用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を業者に依頼している為、量や栄養バランスは良いものになっていると思う。水分に関してはなるべくこまめに摂取して頂ける様に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。場合によっては家族様に相談し、歯科通院を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態に合った排泄ケアができる様に支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本に支援している。各入居者の排泄に合わせてパッドの種類や誘導回数を検討し実践した結果、臀部の皮膚状態が改善した例がある。入浴時に皮膚状態を観察し報告することで全職員が入居者の身体状況を共有し実践することを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂き、なるべく運動ができる様に促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせての入浴は行えていない。週3回午後に入浴している。	週3回、午後に入浴を実施している。同性での介助を希望する方には職員が臨機応変に対応している。また、柚子湯等、季節に応じて入浴を楽しめるように工夫している。入浴が嫌いな入居者がいたが家族の協力で近くの温泉に連れて行ってもらい入浴することができた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れる様に支援している。起床時間もばらばらである為、利用者様に合わせて朝食を摂取して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、施設の看護師と相談し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心掛けてはいるが、十分できているとは言えない。力を活かした役割としては、できる事はなるべく自分で行って頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って外出はできていない。施設では外出行事の時に外に出かけている。また、家族様と出かける事はあがるが、地域の人々と出かける事は無い。	天気や気温を見計らって、敷地内を散歩している。中庭にはりんごや柿、柚子の木等が植栽されていて季節を楽しめる。花見や田植え、さつき展、稲刈り、紅葉等、季節に応じて外出している。嚙下が困難でゼリー食やペースト食等、食事に制限がある方には個別にショッピングを企画し戸外に出かける楽しみを持てるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、入居者様が支払える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少人数だが、自分の携帯電話で電話をしたり、手紙のやり取りをしている利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は加湿器を設置し、湿度が保持できる様にしている。安全且つ居心地の良い環境作りを行っている。	平屋作りの日当たりのよい事業所である。小規模多機能型事業所と隣接しており、広めのテラスと中庭が共有になり、テラスでは夏祭り行事も行われた。天窓があり自然の光が入り明るい。食堂にはメニューの文字が大きく書かれており利用者目線を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになるスペースは設けていないが、応接スペースで一人でテレビを見ている方を見かける事がある。気の合った入居者様同士で談笑する姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、家族様に対し、新しい物はなるべく購入しないで、ご自宅で使っていた物をそのまま持って来て頂く様に話している。	ベッドは備え付けてあるが、その他はなるべく自宅で慣れ親しんだ物を持参するように、本人や家族に伝えている。利用者の身体状況に応じて家具の配置を変えることがあるが、入居者が落ち着いて生活ができるように、居室環境はなるべく変えないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全且つできるだけ自立した生活が送れる様に工夫している。		